### **BAND SCORE**

# KISS ASYLUM

キッス 

クレイジーナイト







### **Contents**

Crazy Crazy Night
I'll Fight Hell To Hold You
Bang Bang You
No, No, No
My Way
When Your Walls Come Down
Good Girl Gone Bad
Turn On The Night

## CRAZY CRAZY NIGHTS

by P. Stanley, A. Mitchell

Copyright ©1987 by Paul Stanley/Largo Cargo Music/(A.Div. of Largo Cargo Music Inc.) Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

#### この曲のポイント

GUITAR: 8 ピートのリズム・パターンとシンプルなコード・バッキングでプレイしている。パターン化されたプレイが多いが、ムダのない作りをしていることを理解してプレイすること。メロディアスなギター・ソロが、曲を印象づける大切な部分であることを頭に入れて、ひとつひとつ正確なリズムでプレイするように心がけよう。

BASS: ギターのコードのルート弾きが大半だが、8分弾きでも、軽く、リズミックな

プレイを心がけてほしい。音色も、ピック弾きのわりにやさしい音作りがされているのも特徴のひとつだ。リズム・キープに徹してノリを第一にプレイしよう。

DRUMS:シンプルな8ビートのリズム・パターンで構成されていて、技らしい技がない分、リズム・キープをいかに長く続けられるかがポイントになるだろう。3リズムー体のプレイが多いので、リズムの要として役割をはたすように心がけよう。







●(Gt.):ここでのギターは、メロディアスにプレイ することを心がけよう。ヴォーカルのメロディ・ラ インを頭に入れて、サポートとして考えるのがよい だろう。



**❷**(Gt.): 4 拍目の 8 分のクイは、リズム・セクション全体でアンサンブルされていることに注意して、 正確にプレイしてほしい。

❸(Gt.): 4 拍目の 8 分クイが転調のキッカケとなる ため、コード・ポジションの確認を忘れないように。



●(Gt.):ヴォーカルのメロディ・ラインの雰囲気をよくとらえて、余裕を持ってプレイしてほしい。そのためには、ハイ・ポジションの多いこのソロのフィンガリングを、いかにスムーズにプレイできるかにかかっている。

**⑤**(Dr.):トップ・シンバルで8分の刻みをつけている。クラッシュとトップの使いわけをしっかりつけることが肝心だ。



⑥(Ba.): ギター・ソロのあとだけに、リズムの乱れのないように、ゆったりとした気持ちでプレイしよう。





❷(Gt.): □の部分、スペースの都合上カットしてあるが、レコードでは、②の1~8小節目と同じギターがプレイされている。

❸(Gt.):あくまでヴォーカルのサポートとしてプレイを考え、リズム・キープを大切にしてほしい。頭の3小節のプレイを印象づけるように心がけるとよいだろう。



●(Gt.): □の部分も□同様、□の1~4小節を3回くり返し+□の1~3小節というギターが入っている。



### I'LL FIGHT HELL TO HOLD YOU

ヘル・トゥ・ホールド・ユー by P. Stanley, A. Mitchell & B. Kulick

Copyright©1987 by Paul Stanley/Largo Cargo Music/(A.Div. of Largo Cargo Music Inc.)/The Kiss Company Rights for Japan controlled by TOSHIBA-BMI MUSIC PUBLISHING CO.,LTD.and VICTOR MUSIC PUBLISHING CO.,INC.

#### ■この曲のポイント

GUITAR:ヴォーカルのメロディ・ラインと一体化したシンプルなコード・バッキングと3リズムによるリフ・プレイが印象的である。ソロ・パートでは、ノリのよいフレーズを流れるように次々と弾きまくるあたりは圧巻である。ハネぎみのリズムにマッチしたプレイを是非コピーしてほしいものだ。

BASS:バスドラのリズム・パターンに同化したプレイが中心で、キレのよいサウンド

をだそう。コピーする場合、小節内の間の取り方に注意してプレイしていってほしい。 ピック弾きの硬めのサウンド作りにも気を使って。

**DRUMS**:バスドラの動きに注目してほしい。曲を印象づける上で重要なポイントとなっているため、正確にリズムをキープしていくことが大切だ。パワフルなドラミングで曲を引っ張っているために、ツッコミのないよう注意してほしい。



●(Dr.):この曲を印象づけるポイントとして、頭からのバスドラのパターンを正確にプレイできるまで練習してほしい。



❷(Gt.):ドラムのリズム・パターンを聴きながら、 ハネるようにプレイするのがコツ。フレーズとフレ ーズの間をしっかりキープしてスムーズなフィンガ リングを心がけてほしい。





❸(Ba.):ドラムのリズム・パターンとは別に、3連 フレーズをキチッとプレイするのは難しいが、ヴォ ーカル・ラインを聴いて、自然に2拍3連がでるように頑張ってほしい。



●(Dr.): サビ前のフィルをうまくプレイすることで流れを作ろう。フロア・タムのチューニングは重めがよいだろう。





**⑤**(Gt.):前小節のグリスからスムーズにソロが流れ るように、ポジション確認をしておくこと。ここは タメる気持ちでゆったりプレイするとよいだろう。

⊕(Gt.):ドラムのリズム・パターンを聴いて、正確なリズムで弾くこと、6速フレーズの連続でリズムの乱れをおこしやすいため、何度も練習してフレーズの流れをあらかじめつかんでおくこと。





**❷**(Gt.):前のソロ同様にリズム・キープに気を使うこと。チョーキングでの間のとり方をしっかり身につけておくと、フレーズに幅がでるので、自分のものにするように。



## BANG BANG YOU

by P. Stanley, D. Child

Copyright©1987 by Paul Stanley/April Music Inc./Desmobile Music Co.,Inc. Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO.,LTD.and SHINKO MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

#### ■この曲のポイント

GUITAR:シンプルなコード・バッキング中心だが、パワフルでタイトな感じをだしている。ヴォーカルが中心に作られているため、歌中はリズム・セクションの一部として機能し、ソロでは思いきったプレイをしている。ソロの組み立て方が非常にうまく、曲を充分ひきたてていることに注目してほしい。

BASS:シンプルなルート弾きに徹しているが、キレのよいサウンドをだしている。バスドラと合わせるフレーズが多いので、重めにイコライジングしておくとよいだろう。 DRUMS:シンプルな8ビートのリズム・パターンでのプレイが中心だが、パワフルでタイトなドラミングが圧巻だ。曲中を正確なリズムでキープし続けることは非常に難しいということがよくわかる曲だ。





●(Gt.):開放弦を使ってプレイするために、ピッキングに強弱をつけて、サウンド全体をにごらせぬように注意しよう。



❷(Gt.):ミス・トーンのでやすいフレーズなので、 正確なピッキングを心がけてほしい。ダブル・チョ ーキングでは中途半端な音をださないように注意し てプレイすること。

❸(Ba.):チョーキングに注意して正確な 8 分弾きを 心がけてほしい。





●(Gt.):チョーキングのロング・フレーズは間のと り方に注意してプレイすることが肝心。自然なフィードバックがだせるように頑張ってみよう。



●(Gt.):まず、贈割りを確認して、フレーズの組み 立てをチェックする必要がある。チョーキングのあ との速弾きがスムーズにいくよう、リズム・キープ も忘れないこと。



(Dr.):シンプルなリズム・パターンだが、ここではよりパワフルにプレイすること。





❷(Gt.):ヴォーカルのメロディ・ラインとかけ合う ようにソロを組み立てているので、ゆったりとプレ イする気持ちで、流れるフレーズを心がけてみよう。



# NO, NO, NO

by G. Simmons, B. Kulick & F. Carr

Copyright. 1987 by Mr. Simmons Music/The Kiss Company Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., L'TD.

#### ■この曲のポイント

GUITAR:スピード感あふれるプレイの連続にもかかわらず、パワフルなサウンドを作りだしている。特にソロ・パートでの流れるようなフレーズの組み立ては圧巻だ。ムダなプレイがひとつもなく、緊張感が持続されているので、曲の構成をしっかり理解した上で、じっくりとひとつひとつの音に注目してほしい。

BASS: 8分弾きが中心で、ギターとのユニゾン・プレイも多く、曲に重厚感をだして

いる。この曲も4弦Dチューニングか、5弦ベースを使ってプレイしているが、ここでは、オクターブ高くタブを記してある。

DRUMS:スピード感のあるパワフルなドラミングで曲に流れをつけている。バスドラの正確なリズム・キープによって曲が支えられているため、バスドラのリズム・パターンを正確に覚えておこう。





●(Gt.):まずライト・ハンドのポジションを確認して1小節を何度も練習して、よりレコードに近づけるようにしよう。





❷(Gt.):ここでのプリングはより力強くプレイしてほしい。8分でどれだけ正確にリズム・キープできるかが大きなポイントになる。





❸(Gt.):ハーモニクスは、単音弾きではなく、カッティングしながら音をだすように。難しいが、それがリフにキレを与えるため、おもいっきり力強く弾くこと。

●(Ba.):ここではオクターブ高くタブを記してある ので注意。









**⑤**(Ba.): 3リズム一体でソロをサポートしているため、正確なピッキングで、パワフルなプレイを心がけてほしい。特にプリングで音をダブつかせないように注意すること。





❸(Gt.):音そのものは単純だが、ハネるように弾く のが難しく、リズムも乱れがちになるのでノリに注 意してほしい。 **❷**(Gt.): ロング・チョーキングのあとの速弾きがス ムーズにいくようにリズム・キープを心がけること。 ライト・ハンドの部分は特にしっかりプレイしない とあとのフレーズが生きないので注意しよう。











❸(Gt.):前のソロより、多少ゆったりとした感じで プレイするとよいだろう。それには、ロング・チョ ーキングを正確にプレイするのがコツ。

●(Dr.):ここではよりパワフルにプレイして、エンディングの印象を強くだすようにすること。





by P. Stanley, D. Child & B. Turgon

Copyright (1987 by Paul Stanley/April Music Inc./Desmobile Music Co.,Inc./WB Music Corp./Acara Music Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO.,LTD.
SHINKO MUSIC PUBLISHING CO.,LTD.and WARNER BROS. MUSIC (JAPAN) INC.c/o NICHION, INC.

### ■この曲のポイント

GUITAR: ヴォーカルのメロディ・ラインを生かすコード・パッキングがなされていて 小気味よいサウンドを作りだしている。キーボードとのコード・アンサンブルもクリアーで、ムダのないプレイをしていることに注目してみたい。ソロではメリハリのあるフレーズで曲を印象づけているので、 I 音 I 音正確なコピーが必要である。頑張って最後までコピーしてほしい。

BASS: 8分弾きのシンプルなフレーズで統一されているが、バスドラとの正確なリズム・ワークが、重厚感をだしている。この曲でも、E<sup>b</sup>音がでているので、タブはオクターブ高く記譜してある。

**DRUMS**: シンプルな 8 ビートのドラム・パターンだが、重みのあるサウンドを作りだしている。タイトでパワフルな音をだすことを心がけて、 | 打 | 打正確にプレイしてほしい。





●(Gt.):パターンを頭に入れて正確にプレイすること。ミス・トーンのでやすいフレーズなので、人差し指でバーをしてプレイするとよいだろう。



❷(Ba.): 4 弦開放音をE<sup>D</sup>でプレイしているが、ここではオクターブ高い音でタブを記しているので注意すること。











❸(Gt.):オクターブ奏法では、ミス・トーンがでないように注意してプレイしよう。ここではゆったりとタメぎみにプレイするのがよいだろう。

④(Gt.):前半のソロとは対称的なフレーズでスピード感をだしているために、ポジション確認と同様リズム・キープをつねに頭に入れておくこと。







**❸**(Gt.):和音はアタックを強く、単音はミュートぎ みにプレイしよう。 ⑥(Ba.):ここではより正確な8分弾きが要求されるので、ドラム同様ギターのフレーズも聴きながらプレイしてほしい。

**②**(Dr.):バスドラのリズム・キープがエンディング のポイントなのでタイトなドラミングを心がけてほ しい。



# WHEN YOUR WALLS COME DOWN

ウォールズ・カム・ダウン

by P. Stanley, A. Mitchell & B. Kulick

Copyright©1987 by Paul Stanley/Largo Cargo Music/(A.Div. of Largo Cargo Music Inc.)/The Kiss Company Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO.,LTD.and VICTOR MUSIC PUBLISHING CO.,INC.

#### ■この曲のポイント

GUITAR: コード・バッキングが中心でシンプルなサウンド作りがされているが、所々にシャレたフレーズがしっかり置かれていて、小気味よい曲だ。ソロの部分は、かなりのハイ・テクニックを必要とするフレーズが多く、しかもトリッキーな組み立てをしているので、弾きがいがあるだろう。

BASS: 8分弾きのシンプルなフレーズで全体を組み立てている。ギターをサポートす

る形が多く、ドラム同様、ギターとのアンサンブルにも気をつけて、ノリのあるプレイをするように心がけよう。

DRUMS: 8 ビートのシンプルなリズム・パターンで統一されている。パワフルでタイトなサウンドをだして、かつ正確なリズムをキープし続けられるかどうかがポイントになるだろう。



●(Gt.):変拍子でのリズム・キープは難しいが、頭の音の位置をしっかり頭に入れてプレイしてほしい。





❷(Gt.): グリッサンドしたときにリズムがモタりや すくなるので、8分のリズムを正確にキープできる まで練習してほしい。



❸(Ba.): ギターと同じパターンでプレイしているが、 簡単そうで、なかなかりズムがしっかりキープできないフレーズだ。何度も練習して、スムーズな流れをだすように心がけよう。





●(Gt.):贈割は難しくないが、ミス・トーンをだしやすい。人差し指でバーをして、プレイするとよいだろう。

⑤(Gt.):初めはゆっくりとひとつひとつの音を確認しながらコピーしよう。ライト・ハンドによるフレーズのリズム・キープは、かなりのハイ・テクニッ

クを要するため、ツッコミやモタりがなくなるまで には、かなり時間がかかると思うが、しっかりチャ レンジしてほしい。





●(Dr.):パワフルにプレイすることでエンディングを盛り上げてほしい。ギターとベースのフレーズをしっかり頭に入れて1打1打正確に。



## **GOOD GIRL GONE BAD**

グッド・ガール・ゴーン・バッド

by G. Simmons, D. Sigerson & P. Diggins

Copyright ©1987 by Mr. Simmons Music/April Music Inc./Smicsmac/Snowtown Music/Rone Music/Flying Pan Music Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD. and SHINKO MUSIC PUBLISHING CO., LTD.

#### この曲のポイント

GUITAR: Gt-Iのバッキングとほとんどユニゾンでもう一本別のギターが重ねられており、Gt-IIと合わせて3本のギターが鳴っているようだ。譜面では、スペースの都合上2本のギターにまとめてある。Gt-IIは、フィルイン・フレーズのほか、Dと匠の部分で、かなり長いソロを弾いている。この曲では、ソロのパートで、アームを使ったフレーズが多く見られるが、このアーミングは音程の変化の大きい、かなりダイナミックなものが多い。また、ライト・ハンド奏法も、複雑なフレーズが多いので、基本的なテクニックをしっかりと身につけてからのぞんでもらいたい。

BASS: 普通の8ピートの曲だが、単音の連続ではなく、かなり動きのあるフレージングになっている。しかし、フィンガリング自体は、それほど難しいものではないので、フレーズの流れを大切にして弾くようにしてもらいたい。

**DRUMS**:シンプルな8ビート・ナンバーだ。ノリやすいミディアム・テンポなので、 正確なりズムをキープしながら叩こう。ハイハットのオープンによるアクセントをうま く使うことがポイントだ。フィルインは、タムを8分で打ったシンプルなものが多いが、 ひとつひとつの音は力一杯叩いて、シンのあるプレイを心がけたい。



●(Gt.):ここのようにスタッカートのつけられている音は、右手の腹の部分で弦を軽くミュートするようにして弾こう。

❷(Ba.):この曲のメイン・フレーズだが、本来ならば、E音だけを8分で弾きたいところだが、動きのあるフレージングで、ノリのよいプレイを心がけよう。フィンガリングに気をつけて、流れるように弾いてもらいたい。



❸(Gt.):贈面のように1音半のチョーキングで弾く 代りに、アームを使って音程を変化させてもよいだ ろう。





❶(Gt.):ここはアルペジオで音を残しながら弾くようにしよう。







●(Gt.):アームを使ったトリッキーなプレイだ。あらかじめアームをダウンさせておいてピッキングした後アップさせる。





❸(Gt.):右手で1弦19フレットを押えたあとすばや く左手で17フレットを押えてプリングする。



●(Dr.):この部分は、休符が多いので、しっかりと リズム・キープしてもらいたい。軽くハイハットを 4分音符で踏むようにしてリズムをとってもよいだ ろう。





●(Gt.):3フレットの位置でハーモニクスを鳴らしたあと、アームで変化させている。ハーモニクス・ポイントをはずさないようにしてキレイな音をだそう。



## **TURN ON THE NIGHT**

ターン・オン・ザ・ナイト by P. Stanley, D. Warren

Copyright@1987 by Paul Stanley/Realsongs

Rights for Japan controlled by TOSHIBA-EMI MUSIC PUBLISHING CO., LTD. and WARNER BROS. MUSIC (JAPAN) INC. c/o NICHION, INC.

## ■この曲のポイント

GUITAR:イントロで弾かれているGt-Iのパターンが、この曲のメイン・リフだ。ここは、フィンガリングをうまく行わないと、鳴りが長くなってしまう。ソロでは、ライト・ハンドや、アーミングなどの派手なテクニックは使われていないが、ハンマリング、プリング、チョーキングといった基本的なテクニックで、まとまりのよいフレーズを聴かせている。ひとつひとつの音を大切に弾くように心がけたい。

**KEYBOARD**: Organ-IIは、レコーディングの際は全面的に使われているかも知れないが、ギターのリパーブのかえしに融けているため聴こえてこない。いずれにしても、のべつまくなし演奏すると、曲のメリハリが無くなってしまうし、リズムの切れも悪くな

るので、ライヴのときは旧だけに使った方がよいだろう。

BASS:シンプルな8分弾きを行っている。この8分弾きは、音をブツブツと切らずに、レガートで弾くようにしよう。ギターやキーボードにかくれて地味な演奏ではあるが、ドラムとともにリズムの要として安定感のあるプレイをしたい。

DRUMS:ノリのよい8ピート・ナンバーだ。シンプルな8ピート・パターンなので、テクニック的な問題はない曲といえるだろう。 図の部分などのシンコペーション・リズムのキメを1音1音ていねいに叩いて、ほかのパートとノリを合わせるなど、基本的な部分をしっかりプレイしよう。



●(Gt.):6弦は左手の親指で押えるフィンガリング で弾こう。





❸(Ba.): 低音む音が鳴っている。このタブ譜はオクターヴ上を記しておいたが、レコード通りに弾くには、チューニングを下げるか、5弦ペースなどを使うなどしてプレイしよう。

**❸**(Gt.):力強くビッキングし、少しビッキング・ハ ーモニクスぎみに弾くと感じがでる。







❶(Gt.):このフレーズは、ハンマリングとプリングをスムーズに行い、トリルのように流れのあるプレイをしよう。



